

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議

2 開催日時

令和6年8月27日（木）午前10時00分から正午まで

3 開催場所

市役所 401 会議室

4 出席した者の氏名

- （1） 委 員 西村幸夫、石田芳弘、佐分晴夫、岡田雅隆、浅田甚作、柴田浩行、
久世高裕（順不同・敬称略）
- （2） 執行機関 新原経済環境部長、小池観光課課長、桃原観光課課長補佐、
小澤観光課主査補、小林観光課主事

5 議題

1. 観光戦略の概要説明

2. 観光戦略の進捗状況について

- ① KPI の進捗 _____ 資料2
- ② 施策全体の総括 _____ 資料3
- ③ 個別施策の進捗 _____ 資料4
- ④ 欠席委員へのヒアリング _____ 資料5

3. 意見交換

4. その他

6 傍聴人

5名

【配布資料】

資料 1 犬山市観光戦略会議 委員名簿（令和 6 年 8 月 27 日 現在）

資料 2 犬山市観光戦略 KPI 進捗状況 一覧表

資料 3 施策の総括表 進捗管理シート

資料 4 犬山市観光戦略 施策別シート

資料 5 欠席委員への事前ヒアリングシート

7 内容

事務局

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより、令和6年度犬山市観光戦略会議を始めさせていただきます。

私、犬山市観光課課長を務めさせていただいている小池と申します。よろしくお願いします。

令和4年3月に完成しました犬山市観光戦略について、策定時には貴重なご意見やご助言をいただき、誠にありがとうございました。この戦略は、犬山観光の魅力向上と持続可能な観光まちづくりを目標にして、重点プロジェクトを中心に様々な施策を展開しています。策定から2年が経過しております。本日は昨年度に引き続き、犬山市観光戦略の各種施策の進捗報告をさせていただくとともに、内容をご確認いただき委員の皆様からご意見ご助言を頂戴したいと思っております。

まず初めに、戦略会議委員の委嘱期間が令和5年8月を以て終了したことに伴い、本日から2年間となる犬山市観光戦略会議委員の委嘱状を机上に置かせていただいております。改めて委員としてご審議をよろしくお願いいたします。

本来ですと、市長からの委嘱という形が本来ではございますが、机上に置かせていただいておりますのであらかじめご了承のほどお願いいたします。また、改めて委員としてのご審議よろしくお願いいたします。

続きまして事務局側の紹介をさせていただきます。

まずは委員の皆様から右側より経済環境部長 新原でございます。

事務局

おはようございます。私が観光課長のときに戦略を策定して他の部署に異動して2年間経ちましたが、今年4月から経済環境部長となりましたので引き続きよろしくお願いいたします。先ほど課長のお話の中で、進捗状況の確認という話もありましたが、それだけで終わらずご意見等々あるかと思いますがこの会議でご審議いただければと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、観光課課長補佐、桃原でございます。

事務局

桃原です。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

続きまして、観光課で担当の小澤です。

事務局

小澤と申します。よろしくお願いいたします。

事務局

さて本会議ですが、犬山市附属機関設置条例に基づく附属機関となります。
市長からの諮問につきましては、口頭にて先ほど経済環境部長が代わってお
願いをさせていただいております。

なお、答申についても、今回は文書でいただくものではないと思っており、
成果物としての素案等もございませんので、皆様からのこの会議での貴重なご
意見ご助言を事務局が取りまとめて頂戴し、次の施策に反映させていくといっ
た形で考えておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議ですがお手元の次第に沿って進め、長くても2時間で終了させて
いただきたいと思いますと考えております。

また、委員総数は11名ですが、残念ながら本日は欠席となられた方もいら
っしゃいます。そして、会議前にご案内させていただいた通り、西村先生現在
こちらに向かっているというので、現時点で6名の出席となっております。
委員の過半数のご出席をいただいておりますので、成立しているという
ことで、ご報告をさせていただきます。

続きまして、本日の会議は公開で開催されます。

会議室後方には傍聴人の方もいらっしゃいます。傍聴人の方は、会議中を静
かにお願いいたします。撮影等は会議進行に支障をきたさないように自席から
の撮影は認めますが、撮影録音は個人の情報メモとしての利用に限り、切り取
って公開することはやめていただくようお願いいたします。

会議の内容については後日資料と会議録をホームページで公開する予定と
なっておりますので、ご了承ください。

会議録につきましては、2人の委員が署名することとなっております。名簿
順ということですが、前回の会議で石田委員と服部委員にご確認いただきまし
たので、本日は出席していただいております佐分委員と岡田委員に、後日ご署
名をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ここで資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局

それでは議題に入らせていただきます。まず始めに会長の選出になります。
改めての委嘱となるため、会長も改めて選出することになります。選
出ですが、どなたかご推薦はありますでしょうか。

石田委員

はい。

事務局	石田委員どうぞ。
石田委員	前からの経緯で、前回同様に西村幸夫さんを会長に推薦したいと思います。
事務局	ありがとうございます。石田委員から、西村幸夫先生とのご推薦がありました。本日は不在ではございますが、委員の皆様どうでしょうか。 (全員 異議なし)
事務局	ありがとうございます。それでは、西村会長として引き続き選出することになりますのでよろしくお願いいたします。 ご不在でございますが、会長の札を置かせていただきます。 続きまして、議事の進行に移りたいのですが、ご不在の状況ですので観光戦略会議の規則に沿って、会長に事故等あるときは会長が指名する委員がその職務を代理するとあるので西村先生に確認を取ります。 (西村氏へ電話して会長に推薦・選出された旨を報告)
事務局	犬山市観光課小池でございます。今はスピーカーで皆様と共有しながらお話をさせていただいております。 ただいま、予定どおり戦略会議がスタートしまして、改めて西村先生を会長に選出することを、委員の皆様にご承諾いただきまして、西村先生を会長と決定させていただきましたのでよろしくお願いいたします。
西村会長	はい。了解しました。
事務局	続きまして議事の進行で、規則にある通り会長に事故等あるときはあらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理するというので、こちらの会議の進行を本来は会長がやることになっており、代理をご指名いただきたいのですがよろしいでしょうか。
西村会長	承知いたしました。それでは石田副会長にお願いしたいと思います。
事務局	それでは石田委員に副会長として職務の代理をお願いしてよろしいでしょうか。

石田委員	皆さん、いいですか。 (全員 異議なし)
事務局	それでは雨が降って足元悪いと思いますので、気をつけてお越してください。 (西村氏との電話終了)
事務局	皆様、大変お待たせしました。 それでは議事の進行に進めさせていただきますが、新原部長は次の会議がありますのでここで退席させていただきます。
事務局	ここで失礼します。
事務局	ここからは議事に入らせていただきたいと思います、石田委員から職務の代理として一言挨拶いただいてもよろしいでしょうか。
石田委員	西村会長がお着きになるまで、進行役を務めさせていただきます。貴重な時間ですから、早速始めさせていただきます。 まずは資料を事務局から説明してください。 そのあとで皆さんと意見交換したいと思います。
事務局	ありがとうございます。それでは資料2～4についてご説明をさせていただきます。すべて資料の説明が終わった後で意見交換となりますので、説明させていただくのでよろしくお願いいたします。 (事務局説明)
石田委員	ありがとうございます。事務局からの報告を聞いて、皆さんの立場でどう思うか意見を聞きたいと思います。
久世委員	はい。
石田委員	ではまず久世委員。
久世委員	以前から言っていることですが、課題は夏の閑散期とか分かっていることは多かったんですけどやっぱり相変わらず対外的には食べ歩きを推奨してる状

態なんです。観光宣伝っていう具体的な施策になると串のマップ配って結局食べ歩きをやっている状態なので。それがマイナスに働いていることが最近やっぱりかなり顕著だと思います。だから気候の良いときで食べやすいときはいいんですけど、そうじゃない悪天候とか暑い寒いつて時は極端に減ってしまう。うちの場合はいろんな業態のお店を会社の中でやってるんで、本当に極端に数字で分かるんですけど、客席があると安定するんです。だけど、食べ歩き依存だと、ものすごい変動が激しいので、多分これをやっている店舗はもう耐えられない。1人でやってて、悪いときは休む来るときはやるっていう業態にどうしてもなっちゃうんです。だけど、人を雇って安定的に店舗をやろうとするとその極端な波ではとてもじゃないけどやってられない。やっぱりこの食べ歩きってのはもう本当にやめたほうがいいと僕はずっと前から言っているんです。もうそのイメージが定着してしまってるがために、閑散期の谷が深くなっているという傾向が、昨年夏減ったって言いましたけど、今年はもっと減っている。ただ夜は増えてる。夜やってると安定するんです。だけど昼、変えられない状態でやってる方はもうとてもじゃないけど夜やる体力がないという状態なんです。本町もロングラン花火のときって去年は結構店やってたんですけど、今年はほとんどうちしかやってない。観光で盛り上がってるように見えても、店舗の個々の体力はかなり落ちてる状態だと思います。

これを払拭するためにポイントとしては、地権者への働きかけです。というのは、地権者さんがある程度土地とか建物を持ってても、小分けにしちゃうんです。店舗をいっぱい入れて、それはオーナーさんにとってコンサルのリスクヘッジになるんですけど、やってる店舗とお客さんにしたらあんまり良くない形。地権者と土地とか建物のオーナーさんとコンサルのためのまちづくりに今かなりかけてる状態。ですから、地権者にその業態は結局一時の利益になるかもしれないけど、長期的にはまちを壊すことだし、自分の利益になりませんよということをちゃんとやってく方がいいかなと思います。

石田委員

なるほど。実践に裏打ちされた極めてリアルな意見だと思って聞いてました。最近晋遊舎という出版社が日本の名城ベストランキングという雑誌出して、実は日本中の城下町のナンバーワンが犬山城下町というのが出てきたんですよ。びっくりしましたけどね。表面はそこまで来てますが今の、久世委員のような、底流に流れるような非常にリスクで十分みんなで議論しなきゃいけないと聞いてました。

久世委員

僕は店舗の方とも住民の方ともお話しすることが多いけど

(西村氏、会議会場に到着)

事務局

一度事務局から仕切り直しさせていただきたいと思います。今の状況として、会議は過半数以上の出席で開催しています。西村先生の到着までの間は会長不在のため代理の者として石田副会長が進行いただいております。会議は全体で2時間の予定なので正午までに終了ということで前半は事務局で資料説明させていただき、欠席委員のヒアリングシートで欠席された委員のご意見も紹介させていただいています。今はざっくばらんな意見交換として、ここでいただいたご意見は答申という形で受け止めさせていただいて会議録として残し、市長にも報告して内部での施策に活用させていただきます。

西村会長

いずれにしてもこの会は年1回しか開かないので、今日ご意見いただき、1年間頑張ってもらって来年こういう形でまた報告してもらおうということですね。ではどういう順番にしましょうか。久世委員から左回りでご発言いただきたいと思います。

浅田委員

愛知県観光コンベンション局の浅田と申します。資料のご説明をいただきありがとうございました。KPIを見る限りは順調にコロナショックから立ち直りつついるものと思います。昨年の数字はかなりいいのですが今年度も全国の数字見てみますと、外国人関係はかなりいいんじゃないかと思うので来年のこの報告はですね非常に楽しみであるかなと思っております。愛知県の取り組みを少しご紹介させていただこうかと思うんですが、県の方も今年の2月に4回目の観光基本計画となる「あいち観光戦略 2024-2026」というのを取りまとめております。こちらは愛知県で2026年にアジア大会があり、ここを見据えたものでございます。今回の戦略は【革新・成長】【持続可能】【高付加価値】としての3つを切り口に観光の施策を進化させていこうと考えていまして、この戦略では従来の量を求める観光から質・クオリティを重視する観光へと転換を図っていききたいなと思っております。

特にこの質の部分については1人当たりの観光消費額をどうやって高めていくかってのは非常に重要なと思っており、この1人当たりの観光消費額を高めることで愛知県全体でも年間の観光消費額を1.1兆円の達成を目指していきたいと戦略を立てております。

ここから先は個々の具体の取り組みですが特にインバウンドの方の消費単価の向上を図ることが非常に重要で、これは犬山市さんも同じだと思います。特にインバウンドについてもこれまで爆買い等のモノ消費から体験等のコト消費に移ってるということ言われております。そういう意味で私どもとしても魅力的な体験のコンテンツ、メニューを特に富裕層向けの体験コンテンツの

開発販売に取り組んでいこうと考えております。よく言われる本物の体験、一生に一度の体験と言われるような付加価値の高い観光商品を開発しようと各市町村さんからいただいたいろんなアイデアを素材に、外国人の富裕層に向けて販路を持つ旅行エージェントとともにこの素材の磨き上げを行っております。

犬山市さんからは木曽川遊覧に関するご提案をいただいているので、これをもとに、富裕層向けにどんなプレミアムな体験っていうのができるかということと地域の方々とも一緒になって検討を進めています。県内の他の地域では、食農体験やアートの鑑賞、陶芸体験も素材としていただいているので、こうしたものをベースにこの商品開発を進めています。あとはプロモーションに関わる部分で日本最大の旅行博覧会と言われているツーリズム EXPO というものがあり、来年愛知県で開催するということで誘致に成功しています。

こちらは長年の間、県だけではなく、経済委員会等の観光業界の方々とともに誘致に取り組んできたその成果が実ったものと思っております。

来年の9月に常滑市のAichiSkyExpo（愛知県国際展示場）で、4日間開催され、最初の2日間がBtoB、残り2日間がBtoCの催事になります。

4日間の会議を通じて10万人規模の来場者が見込まれる非常に大きなイベントで海外からも約300人のバイヤーが来るということで、商談会等も実施されます。犬山さんも出店されると伺っているので、国内外の多くの来場者の方にぜひ犬山の歴史であったり、文化、食などの魅力を力強くアピールしていただければと思っております。以上です。

西村会長 特に犬山市の観光戦略で、KPIにご意見することはないということで良いでしょうか。

浅田委員 特段ありません。

西村会長 今年のツーリズム EXPO は東京で開催し、我々も國學院大學として出展することになっています。

浅田委員 昨年は大阪でコロナ禍明けに出展したのですが、コロナが明けて賑やかに開催されていました。今年は東京なので、もっと動きが大きくなると思っております。

西村会長 ありがとうございます。あと、海外のこのような商談会に犬山市としても出展するような戦略があってもいいと思います。

浅田委員	約 300 人のバイヤーとの商談会もあり、去年でもエキスカーションで回られるというのがありますが、会場の中では出展ブースをバイヤーの方が時間があるときに見て回ったりするのでアピールする場としてツーリズム EXPO 上手く使ってもらえればと思います。
西村会長	はい。ありがとうございます。 それでは続いて佐分委員、お願いします。
佐分委員	委員として観光のことを十分チェックしていないので意見を出しにくいのですが、大学では多くの取り組みをしているので一番最後に大きい試みをしているので追加で紹介させていただきたいと思います。
西村会長	それでは順番に、柴田委員よろしくをお願いします。
柴田委員	現状懸念している点が 2 点。1 点目が公でどうすることができるわけじゃないですが、町中に空いている土地ができるとすぐ、コインパーキングができてしまう。それがこの周辺から、今は外町の方も土地が空いたりすれば、コインパーキングになっているところを 1 つ懸念しています。そこに関連して新たな財源獲得ということで、これは久世議員が議会で提案していただいたのですが、税の獲得というところで、駐車場税の導入はどうかなと。非常に良い提案いただいていて市長もそれは研究したいということで、市議会としてもこの取り組みに臨もうということで、今年度に建設経済委員会で大宰府市へ行きます。もう大宰府では 10 年ぐらいやっているので、小池課長も一緒に視察に行ってくれるということで議会としてもコインパーキングの規制になるかどうかは別として、それと財源確保をあわせて市議会としてもそのテーマに取り組みたいというところであります。 もう 1 点懸念しているのはもうこれ永遠の課題なんですけど、ごみの問題です。僕はごみ箱を常設することも 1 つ検討したらどうかなというところで今、自分自身のテーマとして考えていますけど、例えば、有料のごみ箱をやっているとありますよね。ごみ箱にも捨てるときに、100 円でもいいから入れてくれと。なぜこういうことを考えるかという城下町はそれなりに綺麗になっていますけど、もう本当にコインパーキングとか、駅周辺の自動販売機に置いてあるところに、もう月曜日だと山のようにごみが捨ててあるんですね。城下町なんかはいいにしろ、帰り道は本当にごみがひどい状況になっているのである程度ごみを回収するというのも今後考えた方がいいんじゃないかということも 2 点懸念しており、全体として観光施策は順調にいったるんじゃないかと感じています。以上です。

西村会長

事務局のほうで何か意見があればどうぞ。

事務局

はい。新たな財源と交通まちづくりという部分でのお話をいただきました。議会で久世委員からもご提案いただきまして渋滞や混雑緩和のための対策と財源の確保についてです。そのとき特に印象的だったのは古くて歴史的な本当は残すべきものがどんどん無くなっているのが一番の問題で、無くなり置き換わっていくのがコインパーキングというところで、土地所有者の方からすると一番手っ取り早く利益を生めるし初期投資も少なく済むのでコインパーキングをやるというのは考え方も理解できるし有休土地の利活用と考えると、コインパーキングが出来て利潤を得られるのは周辺の市町ではなかなか無いのでそういう意味では財産を有効活用することで観光の恩恵はあると感じています。ただ一方で町中がコインパーキングになるとコインパーキングを見に来たような感じになってしまうのでこれは良くないと議会からの問題提起があったと認識しています。様々施策はありますが、まずは先ほどご説明させていただいた特定日を設けて公共駐車場の料金を値上げするというのをまず行います。これも議会からご提案がありましたが、これを受けて条例改正をして11月から実施して効果を検証していきます。駐車場税についても勉強させていただきたいと考えています。他にも財源確保の観点では他の自治体では宿泊税など観光には財源が必要になるので獲得するため宿泊税というものも話題に上がってきているのでそこは他の事例を見ながら研究し、なるべく早期に結論を出して実現出来たらと考えております。ごみの問題は城下町のエリアは仰るとおりすごくキレイでお店の方や住民の方、警備員やクリーンキーパーや職員がみんなで一生懸命掃除しているので本当にキレイなのですが、その周辺部は問題になってきているというのも改めて再認識したところなのでごみ問題は終わりが無いですが、愚直に続けていく必要があると思います。ただ、有料化というのはアイデアが全然ないので常設のごみ箱を置き続けることもやっていないですからどこで踏み切るのか悩んでいて今現在は結論が出ないところです。お店の方はごみ箱をちゃんと置いて回収もしてくれていますし、本当に皆さん協力してくださって、私が観光に来て7年になりますが、随分とやっていただけたようになったなというのを感じています。まちとして全体的にはクリーンな状態ですが、もっと俯瞰して見なきゃいけないというのを委員にお話いただいたので、課題として認識することが出来ました。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

それでは岡田委員、よろしくをお願いします。

岡田委員

観光協会の岡田です。どうぞよろしくお願いします。

出だして久世委員から非常に生々しいお話がありまして、資本主義社会であればしょうがない話かとも思うんですけど、実際そんな話になっているのかと衝撃を受けました。通り一辺で外から見てるだけっていうのは、なかなか分からない。皆さんよく流行っていいなというぐらいのことで思ってたんですけど、まさか内情はそんな話だったというのは。それと繁忙期と閑散期の話、8月になって城下町を通ればこれだけ暑ければだれも来ないと思っても、でもまだ見えるっていうだけすごいなと思ひまして、そこら辺のところは、どういう対応が要るんだろうなって思わないでもないですけど。まちづくり株式会社さんへの相談といったところが、今後はまた重要になってこの会も拡張してかなきゃいけないという気がしてきました。あと今の愛知県さんの話ではクオリティ高めていきたいというのに全く同意見で、付加価値を高めるっていうところが一番重要なところかなと思います。ただ、犬山市の現状で言えばインディゴやミュースタイルができたというところで、キャパは増えたけどその限界はあるんで、やっぱりクオリティを高める、付加価値を高めるということを今後やってかないと、仮に観光客の方が減った場合には、根強い岩盤のファンの方を作ってくっていうことが大事なんだろうなと思いましたし、特に去年からの続きになってしまいますけど、郷瀬川の動線、とにかく暗い。あと車が間違っちゃってよく入ってしまうので、そこの整理をやってもらいたい。今日はオブザーバーで観光協会2人来ていますが、2月にあった「ジャパンエキスポタイランド 2024」では徳島がタイへPRに来ていて県知事が出席して踊りでの誘致をやっていたり、犬山も名古屋コンベンションに相乗りさせていただく形で武将隊の織田信長が登場していたりとかやっていたのでツーリズム EXPO でもセントレアで開催するのであれば参加させていただきたいと思っています。

西村会長

ありがとうございます。それでは石田委員。

石田委員

私がこの委員になった肩書は犬山祭保存会の会長で、犬山祭を中心に述べさせていただきます。祭りの本質は神様ですからね。アプローチが全然違うんです。論語で有名な「信無くば立たず」とありますが、祭りは「神無くば立たず」です。「愛無くば立たず」です。だから西村先生に教えてもらった中で直感的に城下町再生に成功したのは、まちづくりは数字でないということです。

事務局は行政マンとして緻密で素晴らしい。だけどこの KPI の進捗状況から始まるところに僕は城下町再生の価値と違うなという気がしてしょうがないんです。タイムパフォーマンス、コストパフォーマンスじゃないんですよ城下町は。そもそも道路拡幅をやめたとか、そこから始まったわけですからね、車社会を拒んだんですよ。犬山の城下町の中でコンビニは1軒しかありません。

駅前通りの拡幅したところに1軒しかないんです。こんな町ないですよ。コンビニエンスを犬山の城下町は拒んでいるんですよ。久世委員のご指摘がいろいろあるんだけど、みんな手づくりの食の文化のお店です。そういうところが素晴らしいと僕は思ってますね。もう一度原点に返って、「神無くば立たず」、「愛無くば立たず」で今後保存会の会長として繰り返し繰り返し原点に戻っていきたいと考えています。具体的にはからくり人形。これ、日本中で犬山を真似することは出来ません。秋の10月は、針綱神社の犬山祭りの催事とはまた別にかからくり町巡りをやりますからね。これに保存会が今後からくり町巡りに全精力を費やしていこうと思っています。犬山祭保存会というのが何をもってユネスコの無形文化遺産になったかということとコミュニティ力なんですよ。ずっと続いてきた城下町のコミュニティ力が、世界の無形文化遺産だったんです。だから、祭りをガチャガチャ言いながら続けたらいいんです。僕は保存会の会長としてそう思ってます。以上です。まあよくやってくれとるよ、観光課は。

西村会長

KPI だけだったら駄目じゃないかって、本質的な議論ですけど、事務局はどう答えます。

事務局

観光戦略を策定したときに KPI で消費と宿泊を伸ばそうというのを客観的な指標として成長が測れるということなのでこちらの数字は追い続けさせていただきたいと思います。本当はまちづくりの何たるかということを私も説明出来ればよいのですが石田委員や久世委員のように語れるものもないので、構成としては考えてまた次回に向かいたいと思います。事務局はまちづくりに熱い思いと強い気持ちで取り組んでいるので、そこは色々場面で見てもらいたいと思います。KPI を追いかけていたいというのは戦略策定時からの主命題なのでご容赦ください。

西村会長

(KPI が) 無くなったら無くなったで何でないのかとなるし、あったらあったでなぜこれだけなんだって言われるので、ちょっと苦しいと思う。

久世委員

これを見て思ったんですけど、梅川先生だったか草津温泉のミストの取り組みが犬山の取り組みで、他の町からこれが良いよねって思われてることってあるんでしょうか。外部の目線が大事だなと思うんですけど。僕らはもう地元の人間で先入観に固まってしまってるんで。対外的に犬山にパッと来た方が、これいいよねって思ったことはあるのか知りたいです。

事務局

観光関係者や一般の方とか色んな方がいるので感覚的なものですが何と言

っても国宝が2つあり、文化財としてのアドバンテージは非常にある。あとユネスコの無形文化遺産の犬山祭もあるということで、加えて名古屋鉄道さんのテーマパークもあり、前提として恵まれ過ぎているので羨ましがられます。それから城下町については「食べ歩き」などテイクアウト的なものが主流になっているのも黎明期は重要だったところ、過渡期にきてご指摘のとおりでしたが、これだけ賑わって商店が連担しているのは皆さん驚愕されて8月の平日でもすごいねと言われます。城下町の街並みを作ったのは市や協会だけでなく一番頑張られたのは個々の店舗なのでそこに尽きるなと思いますが、羨ましがられるのはその部分です。文化財、テーマパーク、城下町の人通りの多さ。素地を作ったのは電線類の地中化と道路拡幅を止めたことでまちの宝物が残ったので一番そこがアドバンテージだと思います。僕らが令和の時代に今考えなくてはいけないのは将来の人たちが令和6年のときにやっといってくれて良かったということをするべきだと思うし、それを今は模索しています。その一つが内田河畔の取り組みだと思いますし、城下町では課題を次に繋げているということかなと思っています。

西村先生、先ほど私が説明の中で小島家住宅と真野家住宅と三井家の話をそれぞれ石田委員と久世委員が取り組んでいる内容を後ほどご紹介いたしますと言って触れていなかったもので、ここでそれぞれの委員から状況をお伺いしたいのですがよろしいでしょうか。

西村会長

はい。ぜひ。

石田委員

これはね、西村先生がユネスコの世界遺産や無形文化遺産を、選定するトップだからね。我々の一番理論的な指導者として犬山城下町は本当に恵まれた。これは私の感覚だけれども、21世紀になって文化庁の文化行政がガラッと変わったんです。それまでは祭りの車山なんかは担当していたから分かるんだけど文化庁が金をつけて修理するだけなんです。それが修理から活用という流れへガラッと変わったんです。作ったんです、価値観を。だから修理するだけじゃなくて修理したらそれを地域経済やもっといろいろな地域文化に活用してくれという文化庁行政のサービスが全く変わったんです。犬山はそこに乗らなきゃいけない。犬山の城下町ばかりじゃなくて全市にわたって登録文化財は僕もカウントしましたが、愛知県の7割以上が犬山にある。群を抜いてやっぱり文化財の町です。文化財の建物の町です。明治村ももちろんあるからね。それはものすごいアドバンテージなんです。それを活用する流れは宿泊なんです。ホテルにするんです。ホテルというよりも宿にすることです。宿というのもこれは哲学があります。家と宿という考え方も大好きなんです。家というのは公的な空間ですが宿は人間の日本人の情緒の空間なんです。全然宿は、

自分の家とは違うんです。もっと哲学的な、文学的な空間なんですよ。それを犬山で作らなきゃいけないんですよ。これが忍冬酒と真野邸の哲学です。

久世委員

三井家を購入させていただいて時間はずっとかかっているんですけど、まず滝を作りました。池と滝を作って突き出したものを部屋があるのでそこを取り囲むようなL字の滝を作って、それに大分ちょっと時間がかかったんですけど、水を表現するものを何か作りたいなというのがまず発想の原点です。観光戦略でも、水景とかの水っていうのを打ち出しはするけど、城下町を歩いていてあまり水は感じないもんですから。何かその水を体験できるものがないといけなかったことで、歩いてると滝の音がする。ということで派手な滝をつくりました。あと建物をいろいろ改修していく中で、いろんな建築家の方とかも、元々がすごく素晴らしい建物なんで、いろんな提案をいただくんですけど、あんまり良くないなっていう提案ばかりで、いじるとよさが消えてしまう。なので、昔にもう極力戻していく方向でやろうというところで、今僕が自分で工事をやっているんですけど、キッチンも自分で作ってしまったんです。やっぱり手づくりでやる楽しさってのが、今僕は自分で楽しんでいるんですけど。

店としても時間かかってもやっぱりいいものをちゃんと作ろうと。いいものを作るためには、新しく何かをやるというよりは、昔に戻していくほうがいいんじゃないかなと。いうところで今やっている。

エアコン1つとってもエアコンはやっぱり快適な空間のために必要ですけど、あれ1個取り付けると、雰囲気ガタッと落ちてしまう。

何とかエアコンを使わない仕組みをやろうとか、いう考えでやっています。

石田委員

会長。ちょっといいですか。

西村会長

どうぞ。

石田委員

僕は先生に犬山のライバルの都市はどこを想定したらいいですかと質問した時即座に「金沢を勉強しなさい」と、金沢の兼六園を見に行きました。今度、福祉会館の後は兼六園公園の犬山版を作らなきゃ僕思ってます。

会長からぜひ、市長に言ってください。以上です。

西村会長

すごいですね。

石田委員

今日はこれを言いに来たんです。変なものできたら、1発で終わりです。日本庭園ですよ、あそこは。

西村会長	兼六園に勝つのは難しそうですけどね。 今の久世委員のお話でそこに来てくれる人はどんな感じのことを期待しているのか。
久世委員	あまりそこはもう考えなくなってます、いい空間ができるとすべき人が集まる。そこで何を出しても基本的に売れるんです。なので、商品を凝るというよりは空間にこだわった。 今までのお店で僕はこれで4店舗目になるんですけど、大体そういう傾向に来てる。その空間に合う商品を作るという方が間違いないんです。
西村会長	だからおっしゃったように小さく小割りで、空間の面白さを消していくのはもったいないと思うんですね。
久世委員	あれは空間を完全に殺してしまう。 城下町全体も多分そういう空間を目指していくのがいい。
佐分委員	私も今色々と出た意見の中で福祉会館の後に兼六園と仰っていましたが、私は金沢の孫に会いに頻繁に金沢へ行ってるんです。金沢は広い邸宅や庭が沢山あってそれが公開されているんです。すごい日本庭園を造るのはお金がかかるし回遊式であることが命だと思います。 それから、庭園を造ってから松の木が落ち着くのに10年かかるけどそれぐらいの覚悟で邸宅を造って古民家風のものを造ればそれを日本料理のお店にするのかというのはありだと思う。私は全体として犬山は元々が本物で滞在型を目指すという意味では久世さんが言った食べ歩きが邪魔というのはそうは思っているけど串文化が定着しすぎていますよね。それは若い人に向けられているのでそれをどうやって改善していくのかは店を出している人との関係が重要になりますけど私も食べ歩きはあまりいいことじゃないと思う。 それから夏場の話があつて発想を変えなきゃいけないと思う。甲子園も朝と夜型にしているので町歩きは早朝の朝市と夜も回遊することを考えないといけないと思う。非常に落ち着いた町になっているが城下町の統一的なライトが少し暗い。もう少し明るくして夜に古民家を見ながら歩くのがいいという形にして夜に外を歩くといい町だとするよう考えたほうがいいんじゃないかと。けばけばしくなく古民家をライトアップしたりとかして、夜はやっぱり暗いんじゃないかと。ただ電柱もないし統一的なライトがすごい素敵だとは思っている。もう少し明るいといいなという感じです。 それから、インディゴは最近、地元の事を考えていてくれていて、イベントなんかでもこれから積極的に使えるんじゃないかと思ってます。また、名鉄さ

んはここにはいないけど、名鉄の犬山の観光のポスターがいつも素敵だと思う。実に落ち着いた大人の観光地というイメージを出してくれているんですね。あれを見て、単にテーマパークの宣伝というのではなく本物の町というイメージをもっと積極的に売りにすれば、他の観光地とは差別化できる町になるんじゃないかと思っています。

名古屋経済大学の経済学部が観光客にアンケートを毎年全学部をかけてやっています、もう少しお金かけさせてくれればさらに充実したものになると思います。あれは教育的実践として教員もやる気を持ってやっているの、犬山市とお互いに盛り上げて続けていきたいと思っています。分析結果の公表も場所を取ってやらせていただいております、定着しつつあると思う。

私どもの大学は今ウズベキスタンの大学と協力をして、経済発展のために観光客を増大させ、その消費を拡大させる方策を考えています。その手段として、観光客に関するデータを収集し、分析をする準備をしています。このことは犬山にも共通して考えられる問題だと思っています。犬山の観光が滞在型であったり、回遊性を持つようにするというのも考えると、データを集めて分析をするということは非常に重要となり、データの収集手段（会員制とかポイント制など）を考えることも必要になると思います。

私は古民家を活かして日本の伝統技術を持っている職人さんに来てもらって、それを作るとともに店先で見えたり体験出来たりというようなことを意識的に誘致していく。犬山焼なんかもいいんだけど、もっと他所から入れるのも本物であれば良いと思うんですよ。犬山は現在、本当に沢山のイベントがあって観光客を良く集めていると思います。木曽川での花火を五月雨式に行うはどうでしたか。

事務局

元々は8月10日に3,000発を打ち上げていましたがあまりの混雑ぶりに警察から注意を受けまして、このままだと大事故につながる可能性があるから対策を考えなさいということで10日間各日300発に変えまして結果的には分散も出来ましたし、一極集中よりはお客様も10日間のうちで来られるときに来て盛況に開催させていただきました。

石田委員

花火屋が喜んでいるみたいだね。花火が中止になると損害の大半は花火屋にいくんですよ。分散したことで損することが減ったと花火屋から聞いたよ。

佐分委員

うちの大学でも花火を打ち上げますが、中止になっても3割～4割は負担するという契約にしていますよ。

西村会長

顧客データベースをどうするかというのはすごく大きな課題だと思いますね。

色んなところでカードを使っているのはそこが大きいですね。地域通貨のいい例があれば。飛騨古川がやっている地域通貨が結構有名で、信用金庫が作ったんですけど地域全体で使っていてそこでデータベースを作って色々なキャンペーンで安売りしたいときにはその地域の人たちだけに呼びかけたりとか、そうすると一番来てもらいたい人に一番いいサービスが出来ることが行われている。日本の中でもいくつか例が出て来ているので、ぜひそういったことも大きい話かもしれませんが考えてもらえたら。

佐分委員

犬山の雰囲気が好きという人もいるからリピーターを増やしたい。犬山名誉市民じゃないけど、会員みたいなものを作ってイベントの案内を通知するとかデータを取る事がすごく重要だと思います。

西村会長

今すごく問題なのは、日本の観光地は来ている人は多くてもどこからどうい
う人が来ていてどれぐらいの頻度で来ていて、その人がいくらぐらい使っているかというのが中々分からない。ヨーロッパの観光地では1年先の予約まで埋まるスイスのようなところもあって全然状況が違う。

久世委員

データを民間の店舗から買ったらどうですかね。例えばうちだと、正直このアンケートを見る前にも分かるんです。天気とかいろんなレベルで分かっている。僕も出来るだけ現場にはいるんですけど、どういう人がこの日は多いか、こういう傾向の日はこういう人が多いとか、あと数字がどれぐらい。業態として店内で食べる店とテイクアウトが中心なんですけど、3つあると、いろんな業態ができる。それだとかこういう日はこういう傾向ってのが全部分かるんです。だからもうこういうアンケート見る前から僕は大体分かるんですよ。だけど、多分観光協会はそこまで分からないんじゃないかな。人通りとか、それがどう具体的に金額になってるかっていうのは見えてない気がするんで。観光課も実験的に店舗をやるのか、店舗からデータを買う方が早いかなという気がします。

佐分委員

理想はレジのシステムと自動的にデータが蓄積するようになっていると。ソフトバンクに言って犬山をモデルにやれたらいいんじゃないか。

久世委員

うちは店舗的にはレジと全部連動しているので、すぐにリアルタイムですぐに分かるんです。

佐分委員

店によっては嫌がる場所があるかもしれないけど、システムとしてそうしちゃえばいい。実験的にとかで観光課で話を持っていったら出来るかもしれない

い。

あと今日は鵜飼の話が出なかったけど、鵜飼は市もものすごくお金をかけてやっているでしょ。あれもすごく注目されているし期待されているからもう少し鵜飼の分析もいるんじゃないかな。あと今は遊覧船も出しているから、それについても。

石田委員

私は一応木曽川観光の社長をやっていますけどね、船頭。船頭が最大のテーマですね。船頭の持続性が。鵜匠は日本一ですよ。市の職員ですから。いいご提案だからね小池課長、頼むよ。あんたよう知っとるで。決定打だよこれ。

ライン下りはね、これはね自然環境が激変してますからね、今の船頭では中々。

西村会長

ライン下りは岐阜県が中流域で少しずつやろうとしてますよね。

石田委員

木曽川は川の流れが日本列島の河川の中で別格みたいです。

西村会長

他にいかがでしょうか。せっかくの機会なので。

佐分委員

今は催し物の拡散はどうやっているの。イベントがあるじゃないですか。酒の催しをしらずに新聞で見たら終わってしまっていて、けしからんと言ったら年間カレンダーを貼ってくれたんですけど、SNS か何かで発信しているのかな。

事務局

市や観光協会が実施するときもあれば民間の方が実施するときもあります。話があったようにお酒まつりは犬山まちづくり株式会社に所属している犬山まちづくり協会さんがやっていたりします。

佐分委員

それは中日新聞の地域版にあったりしますか。

事務局

中日新聞には出ないですね。

佐分委員

金沢の地元の新聞だと私が現地に行って今日何かやってないか見てみると催しごとが細かく載っているんです。

久世委員

店舗もまちづくり株式会社に関与がないところだと分からないぐらい。店舗の中ではあまり評判は良くない。なぜかと言うと人が来るときに集客というよりは人を奪ってしまうところがある。お酒を出したり串物を出したりしているとこだと売り上げが半減するって聞くぐらい。人の集まる時期、平日頑張って、

人が少ないときに店を開けても、人が多く来る時期に、人が取られてしまうということがあるんで、これはもうはっきり言って評判が良くないです。

西村会長

ちょっと質問なんですけど、福社会館はこのあとどんなスケジュールでどうなっていくんですか。

事務局

歴史まちづくり課で主導してやっていまして、情報を持ち合わせていないです。

久世委員

管理委員会はここに3人います。

福社会館は令和7年頃にお堀のその跡地を国の史跡に指定して、それをどういう形で復元をするのかというところまだ確定はしてないです。ただ公園的利用ってところが可能性として高いんですけど、堀をどこまで掘るのか、掘らずに砂利を敷いたり、平面的に視覚的に分かるようにするのかとか、あと東屋をどこにどう設置するのかというところの話し合いをしているところです。

西村会長

だからその東屋が（本町）通りに沿って立つぐらいの話しかなくて、兼六園みたいなものは、なかなかとてもお堀だからとっても難しいという話ですよ。お堀的なものでないといけないということですね。

久世委員

お堀と土塁があったんで、出来れば大手門っていうのがあったけど、遺構が破却されてしまったので復元は難しくても何らかの痕跡が示せないかとか、いう史跡としての復元っていうのが第一なんです。

佐分委員

大手門を記録するものはあるんですか。

久世委員

写真がおぼろげにある。

柴田委員

ちゃんとした図面とかもないです。

久世委員

福社会館は地下室を造ってしまってそこに大手門があったと。地下室なので全部掘ってしまっているんです。遺構が確認出来ないと文化庁としては史跡上に建てられなく、そこがネックになっている。

柴田委員

冒頭におっしゃられた、あそこがこれからの犬山の歴史まちづくりの拠点になっていく、核だというのは、我々委員みんな認識の上で議論を進めてます。

西村会長	福祉会館跡地が上手く活性化していくことを考えていただければと思います。あと車対策というのは今の問題と絡めて何かありますか。
事務局	駐車場の利用台数はほぼ横ばいです。交通量は全て調べていませんが、ゴールデンウィークですと駅西の交差点に右左折車がすごい列になるんですが、去年より今年の方が車の量は少なかったです。すごい細かい取り組みを紹介させて少しいただくと、信号機の時間を警察にお願いして変えまして、歩道の信号の時間を警察に頼んで短くしてもらったんです。そうすると歩行者が通過するときに左折車が待ってて並んでしまい車列になってしまっていたので、支障のない範囲で歩道の信号を短くしました。そうすると次に車用の信号機が黄色になるまでにタイムラグがありますのでそれまでの間にどんどん左折や直進が出来るようになりかなり解消しました。
柴田委員	住民感覚から聞いてみて、信号の時間を変えたことは非常に効果があります。やっぱり歩行者赤信号になると止まるんで、わずかの間に車が進める。あれは良い取り組みだと思って。
佐分委員	大きい問題だけど本町通り、車の通行を何とかならんかと思って。
事務局	歩行者天国を平成 20 年代はやっていたんですが、結局止めた理由は地元の方たちが止めてくれと言って止めたんですね。地元の方は歩行者天国であっても車で許可書のようなものをボンネットに置いて通るんですが、それでもすごく肩身が狭い思いをするので、歩行者天国といった日は作らずに基本的に車両が出入りする場所だからということでやってくれとなり、今は何とか共存出来ないかとやっております。
西村会長	賑わっているところに車が入ってくるとなんでコントロール出来ないの、と外の方は思ってしまうですね。なので、地元の人に納得してもらって地元の方は使えるという仕組みが上手く出来るといいですね。なるべく車が入らないような。気になっているのは先ほどコインパーキングの話がありましたが、駐車場が出来れば出来るほど車の規制が難しくなるので、やるのであればなるべく早い段階で、今やらなくても実験的に週末だけなど、なるべく方向性を見せていかないと、やっぱり駐車場ができたら、中々駐車場の首を絞めるようなことできないので。
佐分委員	週末はどうやって折り合いを付けてるの。車は入れないでしょ。

事務局

基本的に警備員を本町通りに 5～6 名程度配置して観光のお客様はこの先混雑しているので入らないでという看板を持った警備員を本町交差点に一人立たせています。交通規制は出来ないなので禁止じゃなくてお願いします。大体皆さん、他県ナンバーとかはものすごい混んでいるので入らないで対応出来ています。住民の方が入ってくると警備員が時には先導するような形で、安全確保しながら通行できるよう対応しています。そうしたことから流入数が減ってきているとは思いますが。地元の方もご理解がいただけてその時間帯は出入りしないよう心苦しいですけどやっていただいて、住んでいる方からするとなんで対応しないといけないんだというお声もごもっともなので、地域の方との対話は不十分ですが大事だなと思い進めているところです。

石田委員

僕は城下町で生まれて今も住んでいますけど、年々徐々に城下町の勢いが面的に拡がりつつあります。出店するお店も淘汰されていい店が残ってレベルの低いところは脱落しています。もう数年でどんどん面的に拡がっていくと思います。まだ本町通りだけです。今度宿泊施設が出来れば今まで忍冬酒や小島邸は近所の人にとったら迷惑だったんです。それが綺麗になって心理的に明るくなる。久世委員の店も本当に年がら年中シーンとしてたんですが夜に電気が点くと前向きになりますよ。広がってきますよ、夜の犬山城下町。

西村会長

静かなところに価値を持ち出すと周りの方にとっていいんですね。

久世委員

資料の中にあつた木曾川沿いの犬山館の跡地については、市としてはどういう働きかけをしているんですか。色々働きかけって書いてあつて。

事務局

実際には市が土地を購入や借りるというのは出来ないんですが、所有者の方と接触する機会がありました。所有者の方も点々と変わるんですけど、最新の、現在の所有者の方に石田委員と私でお会いする機会があつて、良好な形で開発してくれる買い手がいないかとかご相談があつて、色々探したりはしているが買い手は見つかっていない。今できることは状況を把握することが何よりも大事なので先方に連絡を取って「今どうですか？」と聞いています。何かできる訳ではないけど、買い手が現れそうなら市の河畔の計画や構想をお伝えして踏まえて事業展開を考えていただきたいので必ずそれを伝えてほしいと繋ぎとめています。

久世委員

所有者の方が開発する意向は無くして譲りたいけど開発して購入する意思のあるところがない、宙ぶらりんの状態ですか。

事務局	そうです。自ら事業をする意思はないので次なる方に売却を考えてらっしゃるそうです。
久世委員	河川沿いの今後の決定に重要と思います。 それこそ地元の商工業者で出し合ってとかファンド作りとかが出来るといいですね。
西村会長	私から 1、2 点いいですか。 1 点は KPI の件で、KPI は必要なんだけど、おそらくそれ以外のことって言われると城下町らしさみたいなものがいかにもっと戻ってきているのかとか評価することに色んなお店やイベントが後押ししているかということを手早く評価して質的な方向性みたいなものが見えてくるようなのがあった方がいいかなと思いますね。それは恐らくずっと今まで取り組んできたところ、そういうところが成功してこられたと思うんで、そういう中にうまく質的なものの工夫をやっていたけるといいかなと思います。 もう 1 点はこういうふうに観光戦略を立てていただいて、観光課としてはすごくまちづくりにシフトして動いている。私は全国の観光行政の中ではすごく特色があると思うんですね。他のところはだいたい広報をやったりでそういうレベルで、つまり、みんな平等に何かやらないといけないとなると、全体のことを宣伝するだけで、具体的に場所に関わってるということを、観光のセクションがやってることが少ないんですよ。その意味ではすごく先進的な取り組みだと思いますので、私は自信を持ってこういうことをやってるんだということを周りにもちゃんと言った方がいい。こういう戦略があるんだと、この戦略に基づいてまちづくりをやっているんだということは言いやすい、犬山らしいと思いますので、ぜひそういうことをしていただけるといい。よろしくお願いします。 それでは事務局にお返しします。
事務局	西村会長、ありがとうございました。 2 時間を過ぎましたのでこれで終了させていただきます。 戦略策定時をご尽力いただきました。そして年に 1 回のこのレビューの場でも活発な意見ありがとうございます。また今日頂いたご意見を受け止めて、施策に活かしていきたいと思います。すべてを叶えるのは難しいですが 1 つずついただいたものは身に染みて感じるものばかりですので、しっかりと受け止めて施策に活かしていきたいと思います。大変ご足労おかけしますが年に 1 回この会議をやらせていただきたいと思いますので来年またこういった場でご意見いただきたいですし、また折に触れてどんな場面でも結構ですのでご意見ご

助言ご指導いただけると結構です。本当にありがとうございました。

それではこれを持ちまして、令和6年度犬山市観光戦略会議を閉じさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。